

「工場見学会」とは？ 会員誰もが楽しみにしている

MCFrameユーザ会では年間を通して様々な企画が催されているが、中でも人気なのが工場見学会。会員向けに細部まで例外的に公開してくれるのが通例で、まさに“特別な場”である。



2018年6月1日には、2017年度（2017年9月～2018年8月）の工場見学会が開催された。今回の会場となったのは、温水空調分野を中心とした住宅設備機器（給湯機器・温水暖房機器・キッチン機器・バスルーム・洗面化粧台・ガスファンヒーター）の製造、販売、サービスを提供するノーリツ（本社神戸市）の明石本社工場だ。

ノーリツは1980年代半ばからNRPS（NORITZ Production System）という、トヨタ生産方式をベースにした独自の生産方式に取り組んできた。「必要な商品を必要な分だけ、必要な時に届ける」ことを旗印に、無駄の排除やリードタイム短縮に知恵を振り絞ってきたのだ。生産方式は、「後補充生産方式」と「受注生産方式」の多品種混合生産である。後補充・受注の信号を出荷方面別や在庫の状況や工数バランスで並び替え、12回/日（受注量、出荷量変動を即反映するため）の着工指示を行い、必要な部品を着工順で調達している。品種では受注生産品が圧倒的に多いが、それでも当日の午前中までに受注されたものは、翌日までに生産・出荷、翌々日の配送を実現済みだ。

給湯器は一つ間違えば事故にもつながりかねない機器だけに品質管理にも余念がない。ガスや水を通して漏れがないかを逐一チェックするのはもちろんのこと、ライン班長が前工程で正常なものからコネクタ等を抜き、作業者が気付くか否かをチェックするなど常に緊張感を保って作業している。

そんな全体像を頭に入れた上で、実際の工程を確認しながら詳細の説明に耳を傾ける。ラインはどう組まれているか。

部品や工具はどのように配置されているか。参加者全員、眼を輝かせて観察しており、その一带に自然と熱気が帯びる。作業者の誰もが、気になることがあった時点でためらいもなくラインを止めることが習慣付いていて直ちに警告灯が点るのだが、そんな時の各々の一挙手一投足を見逃すまいと見入っている。恐らくは、自社の工場のやり方との対比で細部をチェックしているのだろう。

一時間ほどの見学ツアーはあっという間に終了。新旧ラインの見比べや、一部に導入しているロボティクス技術の活用など、琴線に触れる内容をふんだんに盛り込んでくれたことに敬意を表し、一同は説明員に感謝の拍手を送った。

その後はセミナールームに戻り、mc-frame導入のプロジェクト活動の事例報告と、デジタル時代におけるIT部門の組織改革WG活動報告—IT部門が期待に応え、部員全員がモチベーションを高く持ち、ITを活用した付加価値を生み出していく存在になっていくことを目指す—をテーマに据えた2つのセッションを聴講。創意工夫に満ちた工場運営との両輪で、同社が現在取り組んでいる経営管理の高度化への理解を深めることができた。



工場見学会は通常、組立加工系研究会やプロセス系研究会などMCFrameユーザ会の他のプログラムを翌日の午前に組み込んで「1泊の合宿形式」で開催している。それは今回も例外ではなく、見学会当日の夜には参加者のもう一つの楽しみである懇親会が盛大に執り行われた。

飲食を共にしながらカジュアルな雰囲気の中で談笑したり議論したりすることは、人々の距離をぐっと縮めることにつながる。互いを知ってオンオフ共に濃密な時間を一緒に過ごすことが「互いはライバルではなく特別な同志なんだ」という想いを育むことに一役買っている。

